

寺子屋リンクスPRESENTS

春の英語準備講座

新小5～新中2対象



100通りの英語を100通りの暗記で叩き込むゴリ押し型の英語学習ではなく、ルールに基づいて論理的に英語を読み書きできる人になるための、本当に初歩から始める英語講座です。これから英語を学ぶ小学生にはもちろんのこと、いま英語を学んでいるけど既に迷子になってしまった中学生にも最適。

2020年 **3月28日(土)**～**4月5日(日)** 全**4**回

【昼コース】 **10:00～12:30**

【夜コース】 **17:00～19:30**

第1回 **3月28日(土)**
第2回 **3月31日(日)**
第3回 **4月2日(木)**
第4回 **4月4日(土)**

第1回 **3月29日(日)**
第2回 **4月1日(水)**
第3回 **4月3日(金)**
第5回 **4月5日(日)**

受講料 **4,000** 円

- ・全4回分、教材費込みの金額です。
- ・初日に現金でご持参下さい。

お申込方法

①LINEアプリから

右のQRコードを読み取り、寺子屋リンクスを友だち登録してお申込下さい。(電話番号等の個人情報はこちに一切通知されませんのでご安心下さい)

②ウェブサイトから

寺子屋リンクスのウェブサイトへアクセスし、お申込フォームに必要情報をご入力後、送信して下さい。

③お電話で

右記のお電話番号へお問い合わせ下さい。すぐに出られない場合は留守番電話に切り替わりますので、簡単なご用件を登録いただければ、後ほど折り返しさせていただきます。

勉強のやり方から見直し、「やらされる人」から「自分でやる人」を目指す教室

寺子屋リンクス

三沢市犬落瀬古間木222-2
(古間木交流センター内)

TEL 090-6687-0690

(代表…松村 受付時間…11:00-21:00)



寺子屋リンクス
LINEアカウント
登録専用QRコード

LINE 友だち追加

ウェブサイトからも登録できます

寺子屋リンクス

検索

講座の内容

第1回 五十音と母音・子音① / 身の回りの言葉の仲間分け

発音編では、ひらがなの五十音表にもとにアルファベットを当てつつ、ローマとは異なる英語らしい読み方への橋渡しをしていきます。文法編では、英語文法の土台となる名詞・動詞・形容詞などの品詞について、身近な日本語を通じて学んでいきます。

第2回 五十音と母音・子音② / 主語・述語・目的語・修飾語

前回に引き続き発音編では、濁点・半濁点・小さい「ゃ」の入る発音などと英語のつづりとの関係を学びます。文法編では、母語の感覚から英語の感覚へ思考を切り替えるための準備となる、主語・述語・修飾語の正しい識別の訓練を行います。

第3回 あいうえおをもっと深く / 日本語と英語の語順の違い

発音編では、いよいよ五十音表から完全に離れ、英語特有のつづりと発音の関係を学びます。これにより、"ar"と"ur"の読み分けや"aw"の読み方が身に付きます。文法編では、英語学習の最も核となる知識「語順のルール」について学びます。

第4回 マジックe / あなたはふだん何をする？

発音編の最後は、「母音2連続のルール」と「マジックe」について学びます。これにより、"rain"や"take"などの単語の読みを初見で予測し、かつ発音からスペルを想起できる力を身に付けます。文法編では、一般動詞を述語とする文章を実際に作文しながら、今後の英語表現の幹となる語順感覚をより確かなものにします。

寺子屋リンクスは、春休み期間中（3/28[土]～4/5[日]）も開講しています。寺子屋で一緒に楽しく学びながら、「本当に意味のある」勉強の習慣を、少しずつ身につけていきませんか？

初めての方には三者面談と学力テストを行い、お子様の現状の勉強力を無料で診断しています。学校で学んだことを無理なく定着させていくためにどう勉強すればよいかについてアドバイスも行っていますので、春休みはぜひ寺子屋リンクスの体験授業に来てみて下さい！

勉強は楽しい

寺子屋リンクス

寺子屋の詳しい情報はウェブサイトで！

寺子屋リンクス

検索

WEBSITE
Go! Go!



※本紙は、寺子屋リンクスが月一回保護者向けに発行している
月刊誌の見本です。ぜひお子様の学習の参考にご覧ください。

学習相談を受けていると、「うちの子は基本は出来るんですけど、応用になると全然駄目です」という話をよくされます。ここで言われている基本とは、比較的短時間で終わる一問一答型の問題を指し、応用というのは、文章問題や記述を必要とする比較的考えさせるタイプの問題を指すものと思われま。

さらに言えば、前者は「簡単だからでき」て、後者は「難しいからできない」という漠然とした印象があると思います。要するに先の発言を言い換えるなら、「うちの子は簡単な問題ならできるが、難しい問題はできない」ということになるでしょうか。

ところが、私の目から見る限り、**そのようにして問い合せをしてきたご家庭で、本当に基本が出来ていて応用だけができないというケースはほとんどありません。**たいていの成績が伸び悩んでいる子は、**そもそも基本のキの部分から理解できていないのが現実です。**

したがってそのような子にいきなり応用問題の練習をさせたとしても、目立つた向上はありません。こちらとしては基本からやり直しが必要であること、また芽が出るまでには相応の時間がかかることを正直にお伝えした上で、絡まった紐をひとつひとつ解くように学習指導を行っていきます。



◆「出来る」に対する、親と指導者の基準の食い違い

なぜ、このように保護者と指導者と認識が食い違うのでしょうか。

これはテストの点数にどれだけ信頼を置いていて変わってくると思われます。もしお子様がテストの一問一答問題で「そこそこ」の点数が取れているのを見れば、あなたも「とりあえず基本は出来ている」と判断するのではないのでしょうか。表面上は正解していますから当然のことだと思います。

一方で指導者は、表面上の点数にはそれほど重きを置いていません。大切なのは中身——基本問題を正解するまでにたどった思考の足跡——を探ります。

思考を分析した結果、確固たる根拠のないまま正解を導いていると分かった場合、見かけ上はどんなに丸が多かろうと、「基本が出来ていない」と判断します。この子は一見すると60点以上は取っているけど、実際の理解度は赤点を切るレベルかも、などと察知するわけです。

一例として、小六の算数における「速さ」を例にとってみましょう。速さとは、**一秒(一分・一時間)あたりに進む距離を示す指標**のことです。これは五年生で学習する単位あたりの数量の派生分野で、本来なら特に目新しい内容でもないのですが、一部の学校教員や塾講師から下のような図を与えられ、半ば公式化した指導をされる事例が少なくありません。

これはたいへん便利な代物であるとともに、**子どもたちから考える力を奪う呪いの図**であるといえます。たとえば「速さ」を求めたい場合、「は」の部分で指で隠して、【時間】分の【道のり】すなわち【道のり÷時間】をすれば、速さの値が求められます。

まずはこの図を覚えましょう!



※「はじき」で教わる場合もあり

これによってとりあえずの点数は取れるでしょう。しかし速さの定義(＝一秒あたりに進む距離)が何たるか直感的に理解しないままなんとなく点を取ってしまうため、次のような問答が頻繁に起こります。

「速さって何を表しているかな?」「ミチノリワルジカンです」

「それはただの計算式ね。で、その式で求めるところの速さとは一体何を意味してるんだろう?」「・・・」

ここで、保護者と指導者との間に「出来る」に対する基準が大きく食い違っています。保護者(および子ども自身)は、とにかく点数は取れているのだから「基本が出来ている」と解釈します。対して私のような学習支援者は、単位の概念を理解していないとして「基本が出来ていない」と判断します。

単位の概念は、中学校で学ぶ多くの学習内容に根を張っています。数学では一年生の比例や二年生の一次関数、理科では密度や圧力や地震波の速度など、また社会科のグラフ資料を読み取るにも、人口密度や一人当たりのGDPなど、単位の概念理解を当たり前のようにならなければなりません。

ひとつ理解したら全て理解できる状態が「基本が出来ている状態」です。公式の暗唱ができるだけでは、他分野への応用が利きません。【道のり÷時間】を暗唱できることを、「出来る」とは認められないのです。

このように、基本ができていないかの判断は、教科横断的な視点と学年縦断的な視点の両方を必要とするため、専門的な仕事といえます。

本音を打ち明けますと、私を含め学習支援業に携わる者たちにとって、相談を受けるまでの保護者の初動の遅さは毎度の悩みの種なのです。こちらは「完全に駄目になる前に早めのご相談を!」と常々啓蒙していますが、そもそも

「基本が出来る」ことに対する判断基準が根本的に食い違っている中で、問合せの頃には既にリカバリーの限界が見えしまっていることも多いのです。

今一度お願いします。お子様の成績が完全に落ちる前に、可能な限り早く相談下さい。また、このことをお知り合いの保護者の方にも教えてあげてください。子どもたちの可能性は、教養によって無限大に広がっていきますから。

◆基本問題と応用問題は何が違うのか

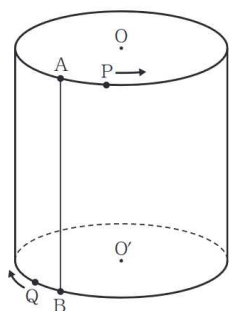
ここまでは、基本と応用のうち、基本についてお話ししてきました。ここからは応用問題についてお話しします。そもそも、応用問題とはどのような問題なのでしょう。その定義に立ち返って考えてみましょう。

冒頭にもお伝えした通り、多くの人は「基本＝簡単、応用＝難しい」という漠然とした印象を持っています。しかし私から申し上げますと、**ほとんどの応用問題は「基本の組み合わせ」に過ぎません。**教科書レベルの基本概念を複数組み合わせさせて作問されているだけなので、基本さえ習得してしまえば、応用の習得にはさほど時間はかからないというのが実際です。

見た目の複雑さは、一問に組み合わせられる基本概念の数に比例します。融合する基本概念の種類が増えれば増えるほど、複雑で難しい印象に映るのです。昨年度の青森県公立高校入試問題の中から、ひとつ例を挙げてみましょう。

数学 ③

下の図は、底面の半径が5cm、母線ABの長さが10cmの円柱である。点Pは点Aを出発し、円Oの円周上を一定の速さで動き、1周するのに30秒かかる。点Qは点Bを出発し、円O'の円周上を一定の速さで点Pと逆回りに動き、1周するのに45秒かかる。2点P、Qが同時に出発するとき、次の問いに答えなさい。



イ 5秒後の $\angle AOP$ の大きさと線分PBの長さを求めなさい。

文章量の多さから一瞬難しそうに見えますが、与えられた数値を丁寧に図に書き込み、条件文をよく読み込んでいくと、以下の四つの基本概念を組み合わせた問題であることに気がきます。

①円周の長さの計算(小五)

③扇形の弧の長さと中心角(中一)

②速さの計算(小六)

④三平方の定理(中三)

いずれも教科書の例題の域を超えないレベルの知識ですが、**応用問題の怖いところは、これら①③④のいずれかの知識が一つでも欠けていると先に進めなくなるという点**です。基本概念が全て揃って初めて正解にたどり着けるものなので、グレーゾンの部分点などというものはありません。

ですから、「応用問題が出来ない」という訴えは、その元となる基本概念に不足があることの裏返しなのです。基本が出来て応用が出来ないということはありません。逆に言えばそれだけ基本を極めることが難しいということでもあります。学習時間の大半は基礎の習得に割くべきで、無闇やたらに応用問題をこなすことで学力が伸びるわけではないという点には注意が必要です。

◆過去問を急いで事は仕損じる

最近是小・中両学校において、学力テストや入試の過去問を授業時間内に解かせたり、宿題にする事例が増えているようです。しかし、過去問もただやらせればよいというものではありません。タイミングの見極めが重要です。

ここまでお伝えしてきたとおり、応用問題はあくまで複数の基本事項の組み合わせです。基本の理解すら怪しい子が数多くいる中、いくら応用問題の数をこなさせたところで、公式の暗唱と同様、他の問題への応用が利かないその場しのぎの対処にしかなり得ません。

学年の枠にとらわれずに、それら応用問題を構成する基本概念の定着に比重を置いた課題を与える方が、本物の応用力の醸成に必要なことであるように私は思います。学校とはその力を育てるための場所であるはずです。

また、そのような学校の過去問偏重の流れに感化されてか、保護者側も焦って過去問の演習を子どもに急かしたり、難易度の高い問題を中心に取り扱う塾に対して「手厚い指導をしてくれる」と勘違いするケースも多くあります。

私が受験指導をする際、過去問を扱い始めるタイミングは比較的遅めです。保護者の皆様はそれに対してやきもきした心地を感じることもあるかもしれませんが、こちらはお子様の基礎学力・学習習慣・メンタル面を総合的に観察しながら、しかるべき導入タイミングを見定めています。もし学習指導に関して心配事がある場合、LINEやメールなどお気軽にご質問下さい。

寺子屋リンクス／家庭教師のリンクス 松村大介

今月のグルメ一匹狼



からあげ定食(¥700)

見よこの小鉢の数を。そして唐揚げのボリュームと、それを補う野菜との完全な栄養バランス。この日の献立を全て挙げる。

- ①唐揚げ10個(デカい!!)、②麻婆豆腐、③千切りキャベツ、④麻婆茄子、⑤トマト、⑥もやしとしめじとほうれん草の和え物、⑦桂剥き大根の何か、⑧浅漬け、⑨豆腐とわかめの味噌汁、以上。階上という地理の不便ささえなければ、毎日毎食でもお世話になりたいくらい完全食だ。

だが、かなり年季の入った昭和ムード全開の店に、店主ご夫婦はかなりの高齢と見える。このありがたい定食も、もうじき食べられなく日が来るかもしれない...

トライアングル

◆階上町大字道仏天当平6 3

◆不定休/11:30~20:00